

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

173号 2016年1月31日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「平和の君の到来」

——エフェソの信徒への手紙第2章14～16節——

牧師 渡邊 義彦



実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。
(新共同訳聖書)

2015年、平和を深く考え心に留める1年でした。戦後70年を経て日本において戦争の悲惨を直接には経験していない世代に交代しつつあります。そのような中、安保法の改正、ボーダーレスになってゆくテロの危険、難民の流出と流入、平和の課題は20世紀の大きな二つの世界大戦後、東西の大きな対立から、国を越えて民族間に、より小さな地域に細分化されて、対立、衝突の構造を複雑なものとしています。世界の大国が核兵器の発射ボタンに手をかけて牽制し合うような世界大的な平和の危機は、一見、後退したかにも思えますが、小規模な核兵器や殺傷能力を増した武

器は、むしろ世界の至るところに拡散し、兵士のみならず一般人をも巻き込むような争いになってきました。このような折、一層の平和希求を訴えることの必要を思います。

わたしたちが住まう日本は、この70年に亘り他国と武器を交える戦争をせず平和のうちに暮らしてきた、平和憲法の精神を貫いてきた、と言えるかと思えます。しかし、戦争が無い、戦争をしてこなかったというだけで平和だ、と言えるでしょうか。武器をもって他国を攻撃してこなかった実績は大変に尊いと言わなくてはなりません。日本人としてこれを誇りとしなくてはならないでしょう。けれども、そこで立ち止まり考えなくてはならないことがあります。ほんとうに戦争が無いことだけが平和なのか、ということです。さらに求め希求しなくてはならないことがあるはずで、わたしたちの国に戦争が無いということだけでは平和が実現できない世界の情勢があります。隣国に起こる火の手、世界の反対側で起こった火の手がいつわたしたちの生活を脅かすか、予測が容易ではない時代を迎えています。

世界情勢だけでなく国内のことを考えてみても、5年を迎える東日本大震災の災害復旧はまだ途上で負債は人々の生活に重く負わされています。愛する家族を失った痛手は何によっても癒され難いことでありましょう。原発事故による放射能被害の回復は依然として見通しが立っていません。そのような途上で既に原発は再稼働されてゆきます。経済や景気、雇用の問題はどうか。子供たちの教育や、高齢者たちの暮らしはどうか。医療や介護についてはどうか。家庭に、家族に重い負担が負わされていないでしょうか。社会における不正や、命、財産が破壊され奪われる恐れがあります。

世界情勢といった大きな文脈でなくても、わたしたちのそれぞれの生活といった文脈やわたしたちの人生といった私的な文脈においても、平和ではない、平安ではない、心穏やかではない課題や問題が山積しています。それは単純ではなく一層複雑に深刻なものになってきています。この1年、誰の目からも涙が一粒も流されなかった日が1日でもひとときでもあったでしょうか。ひとり残らず誰もが喜び、笑い、感謝した、そういう日があったでしょうか。わたしたちは笑い喜んだとしても傍らには涙した人がいなかったでしょうか。わたしたちが喜び、感謝し、平安であれば、わたしたちの国だけが戦禍に脅かされなければ、それで平和が実現しているでしょうか。

世界には悲慘が一時として止んだことのないという現実があるとしても、わたしたちの目によってはまだ認めていない、より深いところに滔々と脈々と流れ続けているより高い次元の現実を聖書は語るすることができます。

キリストはわたしたちの平和である、ということ。わたしたちの世界も国も、わたしたちの家庭も人生も、そこにどのような悲しみや悲慘を抱えていようとも、キリストがわたしたちの平和でいてくださるというのは聖書だけが語ることでできる現実です。

人は神無しに生きられると錯覚し、神との約束を破り過ちを犯し、神との間の平和を一方的に人間のほうから破棄してしまいました。現代もなお人間は神無しに生きようともがいています。ところがこのもがき、苦しみには既に終わりが定められました。既にキリストが十字架を負ってくださったゆえです。キリストが十字架を負ってくださったのは、あらゆる敵意、隔ての壁を崩し去り、滅ぼすためであり、神と人との間に平和を打ち立てられる救いのためであったゆえです。

この深い真実、既に打ち立てられている平和を知ること、差し出されている和平を受入れることで、平和を祈り求める力はその力の源をはじめ得ることができます。神は、一方的に人間によって破棄された平和を、神の側から更に一方的に打ち立てられました。キリストの十字架は、神とわたしたちの間にもたらされた真の和解のしるしです。

キリストは、平和の君として、クリスマスにわたしたちのところに来てくださり、武器を持つことも、一切の武力を行使することもなく、無防備な赤子として生まれてくださいました。キリストが来てくださったのは、神とわたしたちの間に、そして、わたしたち、人と人の間に、何によっても奪われない、何によっても壊されることのない、決して崩されない真実な平和をもたらされるためです。実に、キリストはわたしたちの平和であります。

クリスマス会計委員会

上田 昌紀

毎年、教会員・CS生徒・ベテル幼稚園の保護者・聖夜礼拝出席者など300人以上の方から捧げられたクリスマス献金をきちんと管理し、長老会で承認された用途に従って支払と献金を実施することがクリスマス会計委員会の務めです。それは9月から翌年2月まで半年間に亘る仕事になります。それはどんな仕事なのかを詳しくお話しいたしましょう。

***メンバー：**委員長以外の6名（飯島久美、勝田かおり、勝田ゆり、鈴木丈哉、梶田友子、松江繁樹）は5年以上のベテラン委員です。

***主な作業：**アドベントの期間と1月末までの主日礼拝後、①クリスマス専用献金箱の献金、礼拝席上献金袋に入ったクリスマス献金、教会会計に振込まれたクリスマス献金を集めて、氏名（週報ケースのある・無い）の確認、金額（表記金額と現金）の確認、郵便振込の献金は振込手数料の金額を確認、それらを集計表に記入し2人一組で相互に確認し合って献金口数と金額を集計する。②献金くださった方へ受領の報告：週報ケースのある方には、献金袋に「献金ありがとうございました・クリスマス委員会」の印を押して週報ケースに入れる。週報ケースの無い方には、クリスマス献金領収書（氏名と金額を記入）を発行し、住所の分る方には82円封書で郵送する。この作業は、普通の主日は2・3人に対応できますがクリスマス礼拝の日は全員で取り掛かっても普通の主日の3倍位時間を要します。

***聖夜礼拝席上献金の集計：**この献金はクリスマス会計に計上されます。礼拝後に6袋の献金を集計する作業は結構時間が掛かります。

***委員会：**他の委員会に所属している委員もおられるため、毎月第2主日の礼拝後、定例長老会開始前の短い時間に行います。

***委員会で協議する事柄：**9月に開催される第1回委員会で当年度献金目標、使徒の内訳、作業日程を確認する。10月委員会：「クリスマスのご案内」リーフレットの作成（編集内容・原稿

依頼・印刷手配・日程）及び献金袋の購入について協議。11月委員会：リーフレットと献金袋（約500set）の配布要領、クリスマス献金集計作業の当番日程の確認。12月委員会：クリスマスプレゼント予算の実施要領について長老会への提案内容を協議。1月委員会：クリスマス献金集計中間報告について協議。2月委員会：クリスマス会計見込決算報告並びに対外援助献金予算実施計画案（長老会提案）について協議・確認する。

***対外援助献金の実施：**2月定例長老会において承認された実施計画に基づいて、指定された献金先（十数団体）へ献金を捧げます。

***クリスマス会計決算報告と献金者リストを3月定例長老会に提出して、委員会の仕事は終了となります。以上、漢字が多く固いお話しになってしまい申し訳ありません。**

多くの方からいただくクリスマス献金の中には、お名前の無いもの（毎年数名）、住所の無いものなど、受領の報告が出来なくて困ることがあります。でも委員の皆さんはいつも献金を捧げてくださった方に感謝しつつ何か伝はないかと一所懸命調べています。

クリスマス献金はここ3年は目標をクリアしており、たいへん感謝いたしております。

目標額の決め方、用途についてなど、お捧げくださる方々の志に叶った、神様の御心に叶った運営が行われるよう努めて参りたいと考えております。



*この号から、毎月の礼拝などの平均出席者数統計を掲載いたします。

集会出席統計(人・月平均)

	2015年	
	11月	12月
主日礼拝	89.2	103.0
聖書と祈り会	16.8	13.5
教会学校*	94.5	109.7
第1主日開催	11月1日	12月6日
聖餐夕礼拝	12	12

* 保護者、教師を含む

☆☆☆教会の行事☆☆☆

——今まであったこと—— (定例行事は除く)

- ◇11月29日(日) 礼拝後、学びの会が開かれた。
- ◇12月2日(水) 13:30~15:30 新生会・いづみ会 アドベントの集い。
- ◇12月11日(金) 10:00~12:00 ベテル幼稚園 保護者のためのクリスマス礼拝。
- ◇12月15日(火) 10:00~11:00 ベテル幼稚園クリスマス礼拝(ページェント)。
- ◇12月20日(日) 10:30~降誕祭礼拝。

12:30~14:00 クリスマス愛餐会。

15:30~16:30 CSクリスマス礼拝

CSのページェントリハーサル風景→

- ◇12月24日(木) 19:00~20:30 聖夜礼拝。

→愛餐会と聖夜礼拝の写真は次ページ

- ◇12月27日(日) 主日礼拝後、みんなで年末の会堂清掃を行った。

- ◇1月1日(金) 14:00~南支区元日礼拝が、深沢教会で行われた。

- ◇1月17日(日) 主日礼拝後、教会学校おもちつきが行われた。



——これからの予定——

- ◇2月10日(水) 灰の水曜日。
- ◇2月10日(水) から3月26日まで受難週。
- ◇3月20日(日) 棕櫚の主日。
- ◇3月24日(木) 洗足木曜日。
- ◇3月25日(金) 受難日。
- ◇3月27日(日) 復活日(イースター)。
- ◇4月上旬に定期教会総会が開かれる予定。
- ◇5月15日(日) 聖霊降臨日(ペンテコステ)。

↑「おもちつき」

左: 子供もつきました

右: 牧師先生もつきました

降誕祭礼拝後の 愛餐会 12月20日

- ◇写真上
復活日以後転入された
新会員紹介
- ◇写真下
降誕祭礼拝で受洗した
高校生を歌で祝う教会
学校の先生たち



聖夜礼拝 12月24日の夜、聖夜礼拝が行われました。教会員以外の方々も含め173名もの出席者と共に聖夜を祝いました。礼拝後の第2部では、キリスト降誕にまつわる聖書を朗読し、皆さんと一緒にその聖書箇所を歌う讃美歌をたくさん歌いました。



「Dona Nobis Pacem・私たちに平和をお与えください」を、会場全体を3つに分けて、輪唱しました。→



↑ 最後にキャンドルの光で、「きよしこの夜」を歌い、祈りました。

今月のメッセージ

—1月のホームページ巻頭言から—

ホームページもご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

一同はこの意見に従い、使徒たちを呼び入れて鞭で打ち、イエスの名によって話してはならないと命じたうえ、釈放した。それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた。

(新共同訳聖書・使徒言行録第5章39～42節)

わたしたちの教会は、今年、創立80年を迎えます。1936年、昭和11年、現在地から歩いて1、2分ほどの借家にて伝道所としての産声を上げ、1942年、昭和17年、現在地に移転して今に至ります。借家を借り、移転し小さな民家を購入して今の会堂に至るまで、この地に留まり福音を宣べ伝え伝道するため多くの祈りと献身、奉仕がありました。この最先端に、今、わたしたちが置かれていることを覚えます。主なる神の召しにお応えして、教会が建てられた地域の救いのためこれからもなお一層の祈りと献身、奉仕に力を注いで参りたいと改めて心に期するものです。

戦中の伝道所開設、教会設立の最初期10年を戦中、戦後の混乱の中で教会建設に仕えてきた先達の苦労は想像を越えるものであったと思います。1986年に、わたしたちの教会は創立50年の記念誌を編んでいます。教会設立当初の伝

道の困難の一端が書き残されています。その後の半世紀の歩みを更に書き残さなくてはならないでしょう。そこにも、たとえ時代の要請が異なるゆえ違った苦労であったとしても、福音を宣べ伝えるための同質の困難が同じように書き記されるのではないかと、思います。

伝道によかった時代など、この2千年、一時としてありませんでした。いつの時代も、その時代固有の課題を抱えながら、時代ごとに異なる課題と直面しながら、しかし、福音はいつも歓迎されたわけでありません。大衆の多くに拒否され、無視されてきました。

けれども、その中に必ず、福音の持つ力に触れる人が起こされ、キリストの救いを一緒に喜ぶ人が起こされてきたので、教会は、歴史において途絶えることなく、無くならず続けてきたのです。わたしたちの教会もそうです。土地は変わり、建物は変わってきました。しかし、この80年、キリストを救い主と信じる人が起こされ続けてきたので、信仰を告白し洗礼を授けられる人が起こされ続けてきたので、この土地に留まり、地域の救いのため祈り続けてくることのできたのです。

この繋がりをもっと先を見させていただきたい。新しい年の始まりに改めて願います。

(牧師 渡邊 義彦)

——編集後記——

- ・クリスマス献金は、必要としている神学校、教会、団体などにもささげられます。大切な献金を神さまの御心に適った捧げ物とするために、祈りつつ大変な作業を続けられている、クリスマス会計委員会について、報告していただきました。
- ・「わたしの聖句・わたしの讚美歌」は都合により休載しました。
- ・降誕祭に若い受洗者が与えられたことを、神さまに感謝します。次号に紹介記事を予定しています。お楽しみに。
- ・教会報へのご意見・ご感想を編集委員まで、お寄せください。(K.I)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前10時30分
聖餐夕礼拝 第1日曜日 午後5時
入門講座 日曜日 午前9時30分
教会学校 日曜日 午前9時
(幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ)
*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会 水曜日午前10時、午後7時30分
日本基督教団 柿ノ木坂教会
〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂1-31-19
電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)
03-3723-3870 (ベテル幼稚園)
牧師 渡邊 義彦